**定例記者会見発言録**

日　　時：令和６年４月３日（木）14時00分～

場　　所：伊達市役所東棟４階　401・402会議室

出　　席：市長、副市長、総務部長、未来政策部長、財務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業部長

報道機関：読売新聞社、河北新報社、福島民報社、福島民友新聞社

発表項目：市長から下記の内容について、別紙資料により説明

年度始めのあいさつ

資料１　伊達市中小企業燃料費等高騰対策応援金の申請受付が始まります

資料２　データ駆動型スマート農業講演会を開催します

資料３　帯状疱疹ワクチンの定期接種が始まります

資料４　生ごみ処理機購入費補助金の申請受付が始まります

資料５　市内周遊パンフレット（農産物直売所編）を設置

《年度始めのあいさつ》------------------------------------------------------

年度初めの記者会見でございますので一言ご挨拶を申し上げます。

まず、令和6年度は市民の皆様のご支援、ご協力をもちまして、事業をしっかり進めることができましたことを心から感謝を申し上げます。

本年度の事業の市政の運営方針について、若干お話をさせていただきたいと思います。昨年度までに大きな事業につきましては、ほぼ終了いたしております。合併特例債等々を使いまして実施をしてきたところでございます。

昨年度までに実施、ほぼ終了したものとしましては伊達小学校の改築事業、認定こども園や放課後児童クラブ、また保原総合公園につきましても整備が終了しております。

新工業団地につきましては、6社が参入していただきまして、現在、操業を始めているところ、そしてまたこれから操業を始めるということで、雇用が期待をされているところでございます。

高子北住宅団地につきましても、今、住宅地への造成は終わりまして、住宅地の販売がされており、住宅が建っているところもございます。また、高子駅の福島側の市道アンダーパスにつきましても、令和6年度で完了いたしておりまして、市民の皆様、そして住まわれている皆様の交通の利便性が図られているというところでございます。

令和7年度からの方針につきましては、これまで整備してきました施設、またはインフラを活用しまして、市内外の皆さんに選ばれるまちを目指していきたい。若者、親子、子育て支援、健康作りへの支援、また、産業振興への支援等、ソフト事業を中心に施策の展開をしてまいります。

その事業により、人口減少や少子高齢化などの地域課題の解決を図ってまいりたいと考えております。

特に今年度から本格的に推進をすることにつきましては、申し上げますと、デジタル化の推進を進めていきたいと考えています。

市民の生活の利便性の向上、そして各産業の振興にはデジタル化は不可欠であります。これまで市役所におきましては市民の市役所窓口のスマート化に取り組んできたところでございますが、今年度は、農業への若者の参入、そして生産量の確保のため、スマート農業を積極的に推進していきたいと考えております。

また、シティプロモーションについてお話をさせていただきますと、伊達市の強みであります自然や特産物等々を市内外に広く知ってもらうということは非常に重要なことだと考えております。これまでも首都圏等でのイベント、それから、紙ベースやデジタルでのPR、情報の提供を行ってきたところでございますが、それも積極的に進めるとともに、伊達市民の皆さんが自分たちのまちの良いところをしっかりわかってもらう、認識をするためのシビックプライドの醸成に向けたインナープロモーションを積極的に推進していきたいと考えております。

公社の統合について申し上げます。4月1日に市内の六つの公社が統合いたしまして、伊達市振興公社が誕生いたしました。6つの公社、それぞれ分野または目的が違う公社が一つになりましたが、異なる分野や異なる目的だからこそ、いろんな考え方や新しい考え方、方策が見出せるのかなというふうに思っています。

今、地域社会また、地域経済、非常に複雑でございます。そうした複雑な対応するためには、こうした異なる分野が一緒に集まって、そして新しい価値を見出すということが非常に重要だと思っていますので、この公社統合によりまして、市民サービスの向上が図られるのかなというふうに考えております。

市といたしましても公社が安定的に経営運営できますようにしっかりと支援をしていきたいと考えております。

以上、令和7年度の市政運営についてお話をしましたが、今年度も市民の皆様のご協力によりまして、しっかり市政を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

《質疑応答》----------------------------------------------------------------

**データ駆動型スマート農業講演会を開催します**

**■　モニター生産者に対する環境測定装置の貸し出し期間について**

記　　者　令和７年度のモニター募集で、20生産者を募集するとのことだが、これは１年間のモニターということで環境測定装置の貸し出しを行うということでよろしかったでしょうか。

市　　長　令和６年度に３台、令和７年度は７台追加して、10台の機器を確保します。まず、きゅうり栽培農家さんに10台を貸し出し、データを取ります。次に、栽培時期が被らないイチゴ栽培農家さんにその機器を移設し、データを取るということになりますので、20ヶ所でのデータ取得になると考えております。

記　　者　シーズンが違う農作物なので、10台ずつ月ごとに貸し出すということで、よろしいですか。夏であればきゅうり、冬になったらその10台を回収して、今度はイチゴの農家の方にお渡しするということですか。

市　　長　きゅうりは、夏秋きゅうりですので、夏から秋にかけてのきゅうりになります。それが終わると、今度は、イチゴの栽培が始まりますので、機器をイチゴ農家の方に持って行き、設置することで、別々の圃場でデータを取得することになります。

**生ごみ処理機購入費補助金の申請受付が始まります**

**■　生ごみ処理機の購入費補助金の予算額について**

記　　者　受付期間が４月1日から来年の３月31日に達した時点で終了とのことですが、予算額はいくらなのでしょうか。

市民生活部長　補助金の予算額は240万円を計上しております。

**■　今回の補助金が創設された経過理由について**

記　　者　福島県は全国で２番目にごみ量が多い。伊達市内の生ごみの量が多いからなどの危機感や意識から、今回この補助金事業が生まれたのでしょうか

市　　長　伊達市においては、生ごみ、庭で刈った草などが多い。重量も重くなるので、できるだけ分別し、生ごみは生ごみ処理機に入れれば、肥料として役に立つこともあります。ごみが多いという認識をしています。

**■　ごみの搬出状況について**

記　　者　何ごみの量が多いのか。昨年度のごみの量の数値や、年々増加しているのか、もしそういったもし数値がわかればお願いします。

市　　長　福島県全体もごみの量が減少しているというような報道があったように、伊達市もごみの量が少なくなっています。そこは人口減少も関連をしているかと思いますが、市民、住民の皆さんがごみに対する意識が高くなって、できるだけ分別をして出すことになったことから、通常のごみの量は減少しているというふうに考えております。

**市内周遊パンフレット（農産物直売所編）を設置**

**■　別ジャンルのパンフレットの作成予定について**

記　　者　４月１日から設置されるのが農産物直売所編ということだが、今後また別のジャンルのパンフレットなども考えていらっしゃるのでしょうか。

市　　長　今後、別なものにつきましても検討していきたいというふうに思っています。ただ、今のところ、やはり農産物が伊達市においては、一番皆さんに求められているものですので、まずは農産物から始まり、そしてその状況を見ながら、他のものについても考えていきたいと思っています。

**その他**

**質疑なし**